

2009年度展覧会報告

この1年間、学内外で図書館主催(一部共催)のさまざまな展覧会開催した。以下、簡単にそれぞれの概要を報告する。

1 東アジアの〈近代〉をみる 岡松参太郎文書展

会 期：2009年4月21日(火)～4月29日(水)
会 場：総合学術情報センター2階展示室
主 催：早稲田大学図書館・
早稲田大学東アジア法研究所

岡松参太郎は戦前、台湾・満洲の植民地法制を立案し、京都帝国大学法科大学の設立にもたずさわった民法学者であり、その父寛谷(ようこく)は、中江兆民らが師事した著名な儒学者である。当館所蔵の「岡松参太郎文書」は、親子2代にわたるもので、2008年10月にその全容がマイクロフィルム版で刊行された。本展示は、その中から比較的状态が良く、特に重要なもののみを集めたもので、原本は資料の劣化が激しいものが多く、今後は非公開となるため、展覧会に出陳する最後の機会となるだろう。かなり専門的な内容であり、かつ会期も短期間であることから、来場者数が心配されたが、予想以上に多くの方たちが来場し、この分野での研究が盛んであり、かつ公開が求められていた資料であることをあらためて知ることができた。

2 〈日本近世文学会春季全国大会開催記念〉 近世文藝の輝き—早稲田大学所蔵近世貴重書展—

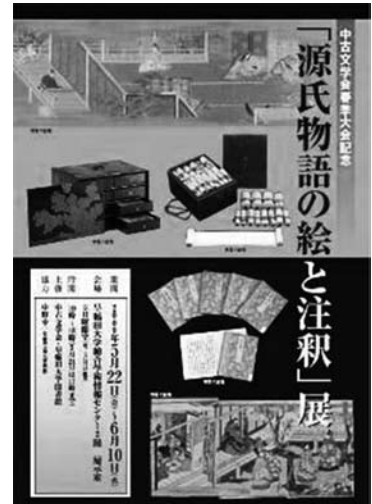
会 期：2009年5月14日(木)～6月18日(木)
会 場：大隈記念タワー10階125記念室
主 催：日本近世文学会・早稲田大学図書館・
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

日本近世文学会の平成21年度春季全国大会が早稲田大学で開催されたのを記念し、同学会と図書館、演劇博物館の共催で開催されたものである。創立以来、図書館や演劇博物館には、数百万点に及ぶ和漢洋さまざまな資料が蔵されるようになった。とりわけ、文学、演劇、洋学など近世文藝全般にわたる古典籍等は、戦前からの収蔵品に、戦後も貴重書を加えて、国内有数のコレクションに発展している。そうした資料から貴重書を厳選し、展示したもので、学会関係者だけでなく、学生、学外の文学愛好者など多くの来場者に恵まれた。

3 中古文学会春季大会記念 「源氏物語の絵と注釈」展

会 期：2009年5月22日(金)～6月10日(水)
会 場：総合学術情報センター2階展示室
主 催：中古文学会・早稲田大学図書館
協 力：中野幸一(早稲田大学名誉教授)

2008年の『源氏物語』1000年紀の余韻の中で『源氏物語』とその享受資料に関する資料の展覧会を開催した。これは、中古文学会春季大会等に合わせたもので、当館が新たに収蔵した九曜文庫を中心とした資料で構成した。九曜文庫は、源氏物語研究の第一人者である中野幸一本学名誉教授蒐集のコレク



ションで、『源氏物語』とその研究、享受資料の写本や版本、さらには画帖、絵巻、錦絵などの絵画資料まで、学界注目の貴重な資料が揃っている。今回、先生のご厚意により館蔵とすることができたが、本展示はその最初のお披露目の機会となった。『源氏物語』が、いかに読み継がれていったかを実感できる展示として好評だった。

4 〈万葉集 1250 年記念〉 万葉集～享け継がれるその思い～

会 期：2009年10月16日(金)～11月17日(火)
会 場：総合学術情報センター2階展示室
主 催：早稲田大学日本古典籍研究所・
早稲田大学図書館

2009年は、『万葉集』に収められた歌で成立年のわかっているもののうち、もっとも新しい歌ができてから1250年にあたる節目の年ということで、各地で様々な記念行事がおこなわれた。これにあわせ図書館でも、早稲田大学日本古典籍研究所との共催で『万葉集』をテーマとした展覧会を開催することとなった。『万葉集』は、後の世の詩歌だけでなく、多方面の学問、芸術に影響を与えたが、『万葉集』と接点を持つそれらの資料を通じて、日本文化史において『万葉集』の担った意義を広く認識していただく機会とする内容となった。

5

第11回図書館総合展／学術オープンサミット2009
明治の錦絵と写真～近代日本の情報発信～

会 期：2009年11月10日（火）～12日（木）
会 場：パシフィコ横浜 展示ホールB
主 催：早稲田大学図書館



昨年に引き続き「第11回図書館総合展／学術オープンサミット2009」において、図書館としてブースを設置、標記の展示をおこなった。展示内容は会場のある横浜の開港150年ということで、館蔵資料の中から幕末から文明開化の時代にスポットをあて、錦絵新聞、彩色写真（横浜写真）など、

当時の社会、文化を映し出す資料をご覧くださいこととした。ブースの大きさは昨年の約半分であったが、入口近くの好位置を確保できたこと、錦絵を用いたポスターが効果的だったこともあって2009人と昨年比約2.5倍の来場者があった。今回も会場にPCを設置し、古典籍DBに収載した錦絵新聞、彩色写真の画像を閲覧いただき、絵葉書を差し上げたのだが、こちらも大好評だった。こうした形での図書館のPRも今後さらに重要になってくよう。

6

鴨川市・早稲田大学交流事業
早稲田大学図書館所蔵古写真展江戸・明治の幻景展

会 期：2009年11月28日（土）～12月6日（日）
会 場：鴨川市立図書館 集会室
主 催：鴨川市・鴨川市教育委員会・早稲田大学

鴨川市に早稲田大学のセミナーハウスが建設された1997年から数年にわたり、図書館所蔵資料を同市の図書館で展示する交流事業をおこなったが、今回、同市からの申し入れを受け、久しぶりに展覧会を開催した。内容は、幕末・明治期の彩色写真（横浜写真）とそのアルバム、関連資料である。直前に横浜の図書館総合展に出陳したものを中心に約60点の写真を展示した。会期最初の週末には当館の展示担当者が資料解説にゆき、翌週は現地の学芸員に解説を依頼した。来年度以降も継続し

ての開催を要望されているが、今後は文化推進部などとの連携のもと、図書館だけでなく学内諸機関の積極的な関与が期待される。

7

生誕150年記念 市島春城展

会 期：2010年3月5日（金）～5月26日（水）
会 場：総合学術情報センター2階展示室
主 催：早稲田大学図書館

本誌別項にも記したように、2010年は東京専門学校の草創期からその運営に尽力し、早稲田大学となつてからは初代図書館長として、今日の図書館の基礎を築いた市島謙吉（春城）の生誕150年にあたることから、2010年3月を中心に各種の企画が実行された。本展示もその一つである。

春城の記念展示はこれまで、生誕100年（1960年）、没後50年（1994年）にそれぞれ図書館主催で開催された。過去の展示では、学外はおろか学内でも知名度の低い春城について、まずは知ってもらいたいとの思いから、春城の生涯を館蔵の伝記資料を中心に構成した。知名度の低さは相変わらずであり、今回も大筋として同じ趣旨で展示をおこなったが、その中でも随筆家・市島春城の側面に注目し、主な出陳資料に日記や随筆集に記された彼自身の言葉を添えて展示した。単なる伝記資料の羅列よりも、一層春城という人物を身近に感じていただけたのではないと思う。新入生を中心に、より多くの方たちにご覧いただくために会期を1ヶ月ほど延長して開催した。

